佐賀県高等学校PTA新聞

発行　佐賀県高等学校ＰＴＡ連合会
佐賀市成章町７－29
電　話　0952(29)2573
ＦＡＸ　0952(26)5435
印刷　大同印刷株式会社

全高Ｐ連佐賀大会の開催が内定

会長　小　出　邦　彦

明けましておめでとうございます。希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、東日本大震災の復興もまだ終えていない中、広島市での土砂災害で多くの尊い命が奪われ、またその後は、戦後最悪の火山災害となった御嶽山の噴火で多くの犠牲者が出ました。

そんな暗い話題が多い中で、10月の初めにはノーベル物理学賞を赤崎教授、天野教授、中村教授の日本人三氏が受賞されるという明るいニュースが入ってきました。省エネで環境にやさしい青色発光ダイオード（ＬＥＤ）を発明したことが受賞理由に挙げられていました。15億人以上の人類の生活の質の向上に貢献したという賞賛の声も聞かれました。

また、ちょうどその頃、国産ロケットＨ２Ａ25号機が鹿児島県の種子島宇宙センターから打ち上げられました。これは世界最高の観測機能を持つという「ひまわり８号」を搭載しており、観測機能の大幅な強化によって、台風や集中豪雨をもたらす雲等の移動・発達を詳細に把握でき、また火山灰やエアロゾルの分布も高精度に把握することができるようになるといわれています。近年多くの自然災害が日本でも発生していますが、それを防ぐためにも今後の活躍が期待されます。

さて、今年は「羊」の年です。羊からは毛糸の服やマフラーなど、暖かいものが連想されます。この１年が平和で、そして社会全体が暖かく包まれるような、そんな話題が多い年になることを期待しています。

ＰＴＡ関係では、昨年９月に行われた全高Ｐ連の第２回理事会において、平成30年の全国大会を佐賀県で開催することが内定し、今年の６月の総会で決定される運びとなりました。いよいよ佐賀大会まで３年と７か月に迫ってまいりました。私たちＰＴＡは、「すべては子どもたちのために」を合言葉に、生徒たちが社会を生き抜く力を身に付け、未来への飛躍を実現する人材となるよう、側面から支援できればと考えています。

最後に、会員の皆さまのご健勝とご多幸を祈念いたしまして年頭の挨拶といたします。

三神地区

当番校　鳥栖工業高校

11月27日（木）、三神地区高等学校ＰＴＡ指導者研修会が鳥栖市のサンメッセで実施されました。佐賀県高等学校ＰＴＡ連合会会長の小出邦彦様と事務局長の久保隆慶様を来賓に迎え、53名の各学校のＰＴＡ及び学校関係者が出席されました。

三神地区ＰＴＡの松隈会長の挨拶、事務局校長挨拶、来賓の小出会長の挨拶の後、特定非営利活動法人ＩＴサポートさが事務局長浴本信子様に講演をしていただきました。「佐賀県のネット使用状況と問題点、その対策について」という演題のもと、子どもたちがネットの特性「見つかる、広がる、伝わらない」を理解し、そして子どもたちがネット時代を生き抜くために必要な護身術の極意を伝えることについて示唆していただきました。

続いて、全高Ｐ連福井大会報告を東明館高校ＰＴＡの二又会長に、九高Ｐ連鹿児島大会報告を鳥栖工業高校ＰＴＡの木原副会長にしていただきました。全国及び九州の各高校におけるＰＴＡ活動と成果について、具体的な報告をしていただき、参加者も真剣に耳を傾けていました。

その後、事例発表として、鳥栖工業高校のＰＴＡ活動について松隈会長が発表されました。ＰＴＡとして子どもにできることを毎年改善しながら取り組んでいるという発表内容でした。

この三神地区指導者研修会において、講演により大きな刺激を受け、全国及び九州の各高校のＰＴＡ活動の状況や三神地区内のＰＴＡ活動について情報交換ができ、実りある研修会になりました。今後も家庭と学校との協力・連携を図って共に教育に関わっていこうという意識の再確認ができたと思います。

《徳久　一巳》

佐城地区

当番校　佐賀商業高校

10月17日（金）、佐城地区の各区からの保護者・関係職員約130名の参加のもと、平成26年度佐城地区指導者研修会が佐賀県立美術館ホールにて開催されました。来賓には県学校教育課主幹の池田典穂様、佐賀県高等学校ＰＴＡ連合会会長の本校後援会会長でもある小出邦彦様をお迎えしました。

開会行事では、当番校（佐賀商業高等学校）で佐賀県高等学校ＰＴＡ連合会会長でもある小出邦彦後援会会長が挨拶をされ、佐高Ｐ連の関係各位のご尽力に対して深い敬意と感謝の意を述べられ、その他に全高Ｐ連の取り組み等についての報告もなされました。

その後、「自立（律）生活を楽しむための生活環境整備のあり方～高齢となっても障害が現れても環境整備を行えば大丈夫～」と題して、国立大学法人佐賀大学大学院医学系研究科医学部附属地域医療科学教育研究センター准教授松尾清美先生の記念講演が行われました。

講演では、「重度の障害者であってもちょっとした補助器具や介助器機の整備等により寝たきりの生活から解放され、自立（律）生活を楽しむことができることを多くの人が知らないので、まず、知ってほしい」「そして、この講演で知ったことを子ども達や家庭や社会等で広く伝えることによって、障害者であっても自立（律）生活を楽しむことができることを多くの人に知らせてほしい。」など、我々が、こうしたことについて理解し、伝えることによって、生活を楽しむことができる方が増えるかもしれないということを知る良い機会となりました。

また、先生の講演をお聞きし、高齢者介護や障害者の介護、接し方などを改めて考え、こうした問題に悩む家庭に光をもたらすかもしれない有意義な研修会になりました。

《渕　和博》

県下一斉合同列車指導

11月13日（木）、佐賀県高等学校生徒指導連盟と合同の列車指導（下校時）を行いました。

これは、高校生の駅構内及び列車内でのマナーを向上させるため、県内高校職員、各高校保護者、ＪＲ職員、佐賀県警察及び少年補導員が一緒になって、毎年この時期に実施しているものです。

佐賀駅構内で行われた出発式では、小出邦彦会長が挨拶で参加者を激励。その後分かれて、佐賀駅乗降指導や列車に乗っての通学指導を行いました。

今回は伊西地区高等学校生徒指導連盟が制作した４本ののぼり旗が参加者の目を引きました。

お知らせ

来年度の佐高Ｐ連「会費」と全高Ｐ連賠償責任補償制度の「掛金」は、今年度と同額です。

○佐高Ｐ連事務担当者会議
４月27日（月）14時～
「グランデはがくれ」

○佐高Ｐ連定期総会
６月11日（木）14時～
「グランデはがくれ」

○九高Ｐ連大会
「やるばい　よかばい　長崎大会」
６月18日（木）・19日（金）
「ベストウエスタンプレミアホテル長崎」
「長崎県立総合体育館」

○全高Ｐ連大会岩手大会
８月19日（水）・20日（木）・21日（金）
「岩手産業文化センター」
「盛岡市アイスアリーナ」ほか

春秋

「アメリカ研修を終えて」

県の「世界にはばたく未来のスペシャリスト派遣事業」で、商業高校や総合学科のビジネス系列及び福祉系列で学ぶ生徒20名を引率して、アメリカのサンノゼ、サンフランシスコ、ロサンゼルスへ10月26日から11月１日までの７日間研修に行く機会をいただきました。

この中で特に印象に残ったのは、シリコンバレーの起業支援アクセラセンターで、ジェトロの方からアメリカでの起業の実態について聞いた話です。今日、起業するため全米に留学している日本人の数が減少傾向にあるということでした。この原因は、日本人が慎重で失敗しないようにという気持ちが強いからだと考えられるが、失敗してもいいからチャレンジする気持ちを持つことが大事ということを話されました。また、日本人だけで起業するのではなく、いろいろな国の人とチームを組んでやることが必要で、そのことでグローバル化に対応出来るようになるということでした。そして、シリコンバレーで起業するには、英語が話せること、ソフトウエアのプログラミングが出来ること、興味を持ったことをとことんやり抜くことが出来ることが必要だと話されました。

これからの日本を考えた時、グローバル化した世界で生き抜いていくためには、外国にも積極的に出かけるチャレンジ精神を持った、外国語が話せて外国人とも上手くやっていける若者を育てることが必要だと感じました。

佐賀商業高等学校
校長　井上　常茂

未来への挑戦！
佐賀県立うれしの特別支援学校 総合運動部・総合文化部

本校は開校して、8年目を迎えています。障害のある子どもたちの「自立と社会参加、豊かな生活の実現」を教育目標に様々な取り組みを行っています。

その取り組みの一つに、本校特有の部活動として「総合運動部」と「総合文化部」があります。一般の中学・高校の部活と大きく違うところは、1種類の活動に限定せず、大会等に応じていくつか興味関心のあるものに楽しく取り組めることです。もちろん一つのことに集中して技術を高めることもできます。

例えば、総合運動部は陸上競技大会があるときは陸上を、卓球大会があるときは卓球の練習をし、また総合文化部は美術コンクールに向けた作品の制作であったり、音楽発表会があるときは合奏の練習をしたりするなど、いろんな体験をする中から自分に合った興味関心を探し出し、豊かな生活の実現につながるような部活動を目指しています。

活動としては、総合運動部は全国障害者スポーツ大会や九州障害者卓球大会及び嬉野リレーマラソンや吉野ケ里リレーマラソン大会などの地域の大会に、総合文化部は鹿島市の「はあとふるひだまりコンサート」や高文連の音楽会や美術展に参加し、多くの賞をいただくようになりました。

先日、部活動の日に「サガン鳥栖」の選手たちが本校を訪れ、総合運動部の生徒たちとサッカーのミニゲームをしてくれました。総合文化部の演奏とダンスの応援もあり、会場は大変盛り上がりました。生徒たちの輝いている眼差しに、サガン鳥栖の選手も、温かく見守る保護者も大変満足した様子でした。

シリーズ No.20

頑張ってるね!! 輝いてるね!!

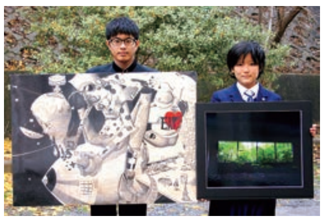
部活動加入率驚異の89%
文武両道を実践する唐津西高校！

ヨット部は、佐賀県ヨットハーバーで練習を行っています。平日は西の浜、休日は東の浜で活動しています。松山先生、重コーチの指導のもと、インターハイや国体で優勝を目指し頑張っています。

今年度は、インターハイでは男子FJ級で8位入賞だけでしたが、国体では女子セーリングスピリッツ級で優勝、男子セーリングスピリッツ級で4位入賞することができました。来年からは艇種が変わっていきますが、これまで以上に努力を続け、頑張っていきたいと思います。

美術部は2年生6人、1年生1人という少数精鋭で日々制作活動に励んでいます。今年度行われた第26回佐賀県高等学校総合文化祭美術・工芸部門においては、2名が特選、3名が準特選、2名が佳作と部員全員が奮闘しました。

なかでも2年の岩橋駿君がデザインの部で特選二席をいただき、来年の全国大会への出場権を得ることができました。これからも、絵画やものづくりを通して、人に何かを伝えられる制作を続けてほしいと思います。



写真部は自由な雰囲気の中、自主的な活動をコツコツ続けています。今年度行われた佐賀県高等学校総合文化祭写真部門において、2年の小副川千帆さんの作品「1968」が上位3作品に与えられる特選に選ばれました。その場で感じたことを、その場にいなかった人にも伝えることができるような写真を、今後も期待します。

鹿藤地区
当番校　太良高校

平成26年度鹿藤地区高等学校PTA指導者研修会を、10月4日（土）に鹿島市の清川にて開催しました。今年度は、来賓として、県高P連より会長小出邦彦様、事務局長久保隆慶様をお迎えし、鹿藤地区の6校から約80名の参加がありました。

開会行事では、鹿藤地区事務局である太良高等学校PTAの木原秀憲会長の挨拶のあと、来賓の小出邦彦会長よりご挨拶をいただきました。

【各学校PTA活動報告】

登下校時の交通指導や挨拶運動、ボランティア活動や面接指導、体育祭や文化祭への参加、スポーツ大会や視察研修の実施など、各学校より趣向を凝らしたPTA活動の報告がありました。

【講演】

「学力アップと体力アップの食事」という演題で、ニュートリ長崎の村元淑子先生よりご講演をしていただきました。

講演の中で、学力アップのためには、朝ご飯でタンパク質をしっかり摂ることが大切だと言われました。そうすることで、体温が上がり、脳が活性化するそうです。また、体力アップのためには、ごはん（米）をしっかり食べ、エネルギーに変えるために野菜を摂らなければならないと言われました。参加者の間を動き回りながら長崎弁で話されるパワフルな講演に80分という講演時間があっという間に過ぎていきました。

講演後参加者からは、部活動の試合前に摂る食事についての質問も出され、後日、村元先生より詳しい資料を送っていただきました。身近な食事についての講演でしたが、新たな発見が多く、大変有意義な研修となりました。

《栗山悠里子》

杵西地区
当番校　白石高校

10月28日㈫、杵西地区高等学校PTA指導者研修会が白石町総合センター「楽習館」で開催されました。佐賀県高等学校PTA連合会会長の小出邦彦様と事務局長の久保隆慶様を来賓に迎え、10校から12の単P計49名の参加者が出席されました。

杵西地区PTAの西昭文会長の挨拶、事務局校長挨拶、来賓の小出会長様の挨拶の後、NPO法人イー・エルダーの大坪一郎様に「ネット社会の現状とスマホの留意点」という演題で講演をしていただきました。

内容は、DVD視聴の後に様々な事例を交えながら、家庭で子どもと親が一緒にインターネットや携帯電話を安全に使いこなす方法について考え、話し合う機会を持ってほしいと訴えられました。その際、「ネット危機」の特徴についても学んでほしいとおっしゃっていました。また、インターネットには多くの利点や便利な使い方がある反面、子どもたちが様々な事件や犯罪にも巻き込まれている現状にも触れられ、特に「ケータイ依存」「ネットいじめ」「ネット誘引」、そして「ネット詐欺」については詳しく説明をしていただきました。

その後、事例発表として、佐賀農業高校のPTA活動について石橋純子会長が発表されました。各種委員会の取り組みによるあいさつ運動や地区の祭りの際の合同巡視、PTA便りの発行や企業・大学・他農業高校の視察訪問研修、母親委員会による佐農祭での餅つきやおでん作りについての報告がありました。続いて、伊万里高校の後援会活動について久我剛毅会長が発表され、総務部のあいさつ運動、大学視察、体育祭巡視、また広報部による広報誌「笹尾台の風」の発行について報告されました。

《副島　博孝》

唐松地区
当番校　唐津西高校

平成26年度佐賀県高等学校PTA連合会唐松地区高等学校教育振興会指導者研修会が11月10日（月）に（株）愛しとーとで開催されました。唐津市教育委員会生涯学習文化財団課長中尾様、佐賀県教育庁学校教育課主幹池田様を来賓に迎え、佐賀県高等学校PTA連合会小出会長、久保事務局長、保護者と教職員55名の参加がありました。

【開会行事】

当番校（唐津西振興会）の前田会長、佐高P連小出会長、唐津市教育委員会の中尾様が挨拶をされました。

【高P連全国・九州大会報告】

福井大会、鹿児島大会の参加報告が、唐津青翔高校、唐津東高校からありました。

【講演】

講師に、（株）愛しとーと代表取締役岩本初恵氏を迎え、「今、企業が求めている若者像～親として今すべき事は何か～」という演題のもと、経営者として、そして唐津市の出身者として、唐松地区の子どもたちがより良い道を歩むため、大人はどうすべきかについて講演して頂きました。『唐松地区の子どもたちはとてもいいものを持っているが、他と比べてアピール力が弱い。』『子どもの成長を伸ばしたいならば、プラスの言葉掛けを行うこと。子どもは親の思い通りにはならないけれど、親が言った通りに育ってくれる。』などには多くの保護者がハッとした表情をされていました。また、質疑応答の時間では「反抗期の子どもに対してどう接すればよいか」と、多くの保護者が共感できる質問が出ました。『子どもの成長に必要なものは大人からの愛情』と話されました。岩本氏は『祖父母の家へ遊びに行かせて下さい。祖父母と触れ合うことで、子どもは優しさを学びます。』と返答され、会場にいた全員が、子ども と大人（地域）が関わることの重要性を再認識させられました。

《松永　弘之》